

雨竜町のあゆみ ～ 年 表 ～

西暦	元号	年	雨竜町の主なできごと	北海道の主なできごと
1868	明治	元		明治維新
1869		2		開拓使をおく 蝦夷地を改めて北海道と呼ぶ
1873		6		人口16.8万人
1876		9		札幌農学校設立 米国からクラーク博士を招く
1880		13		手宮—札幌間鉄道開通
1882		15		札幌—幌加内間鉄道開通 人口23.9万人
1884		17		冷害凶作
1886		19		北海道庁を設置 コレラ・天然痘流行
1887		20		人口78.6万人
1888		21		北海道庁本庁舎(赤レンガ)が落成
1889	大正	22	公爵三条、侯爵蜂須賀、侯爵菊亭が道庁より 雨竜原野を払い下げ	(大日本帝国憲法公布)
1890		23	基線道路、排水溝がつくれ華族組合雨竜大 農場の開拓が始まる	
1891		24	増毛山道が雨竜まで完成	札幌に初めて電灯がつく 岩見沢—砂川—歌志内の鉄道開通
1892		25	雨竜村誕生	
1893		26	華族組合雨竜大農場解散 蜂須賀、戸田、町村の三農場開設	
1894		27		(日清戦争)
1897		30	雨竜村戸長役場開庁 人口3,100人	
1898		31	南竜尋常小学校開校(後の雨竜小学校)	大水害
1899		32	北竜町が分村 雨竜郵便局開設 人口1,906人	
1900		33		札幌—小樽間電話開通
1901	昭和	34	雨竜尋常小学校開校(後の雨竜橋小学校)	
1902		35	村医診療所開設	旭川—札幌—小樽間電話開通
1903		36	川上・恵岱別の開拓が始まる	
1904		37	渭の津簡易教育所開設 (後の渭の津小学校)	(日露戦争)
1905		38	川上簡易教育所開設(後の川上小学校)	人口16.8万人
1908		41	雨竜村駐在所設置	国鉄青函航路開設
1909		42	人口4,210人	人口153.8万人
1911		44	国領の開拓が始まる	
1912		45	国領特別教育所開設 (後の国領小学校)	暴風雪被害 暴風雨被害
1913		2	冷害で大凶作	函館に電車開業 大凶作

西暦	げんごう 元号	ねん 年	うりゅうちょう おも 雨竜町の主なできごと	ほっかいどう おも 北海道の主なできごと
1914	たい 大	3	国領特別教育所が川上簡易教育所国領分教場となる	(第1次世界大戦)
1915		4		全道で水害
1916		5	追分巡査駐在所設置	
1917		6	川上簡易教育所が川上尋常小学校、渭の津簡易教育所が渭の津尋常小学校となる 役場庁舎新築	暴風雪被害甚大
1918		7	雨竜市街に電灯がつく	札幌に電車開通 米高騰で米騒動
1919		8	人口5,640人	各地で水害
1920		9	雨竜尋常高等小学校で校舎新築 蜂須賀農場小作争議	人口235.9万人
1921		10	渭の津尋常小学校の校舎新築	
1922		11	豪雨水害	豪雨水害
1923		12	川上尋常小学校の校舎改築	(関東大震災)
1925	しょう 昭	14	雨竜高等尋常小学校の校舎増築 雨竜村火災予防組合設立	人口249.8万人
1926		15	雨竜橋尋常小学校に高等科を併設	十勝岳爆発泥流被害 小作争議頻発 凶作
1927		2	雨竜郵便局が新築	
1929		4	追分市街に電灯がつく 人口5,569人	平年の三倍の積雪 道南豪雨被害 旭川市電開通 (世界恐慌始まる)
1930		5	役場庁舎増築 川上尋常小学校の校舎増築	米価暴落 不況 人口281.2万人
1931		6	大凶作	冷害凶作 (満州事変)
1932		7	水害で凶作	水害甚大 凶作
1933		8	水害	札幌飛行場完成 豊作 ニシン豊漁
1934		9		冷害凶作
1935		10	石狩追分郵便局が開設	札幌緑全線開通 冷害凶作
1936	わ 和	11		(2・26事件)
1937		12	石狩追分郵便局が新築	札幌―東京間定期航空路開く (日中戦争)
1938		13	雨竜市街で大火被災者308名	ニシン大不漁
1939		14	人口5,543人	
1940		15	ジフテリアが流行	凶作
1941		16	各小学校が国民学校と改称する 村立診療所を新築	国民学校発足 凶作 (太平洋戦争勃発)
1942		17		朝鮮人を強制連行 北海道新聞社創立
1943		18	札幌緑石狩月形～石狩追分が休止 滝川～雨竜にバス運行	
1944		19	札幌緑石狩追分～石狩沼田が休止 滝川～沼田にバス運行	昭和新山出現
1945		20	川上国民学校国領分教場が廃止	米空軍による北海道空爆 (広島・長崎に原爆投下)

西暦	げんごう 元号	ねん 年	うりゅうちょう おも 雨竜町の主なできごと	ほっかいどう おも 北海道の主なできごと
1946	しょう 昭	21	石狩追分診療所を開設 川上国民学校に高等科併設	(日本国憲法公布) 人口349万人
1947		22	各国民学校が小学校と改称 雨竜中学校、雨竜橋中学校が開校 川上小学校国領分教場を再開 牧岡の開拓が始まる	全道一帯大水害
1948		23	雨竜橋中学校を雨竜中学校に統合 雨竜村農業協同組合が設立	
1949	わ 和	24	雨竜橋小学校、川上小学校、渭の津小学校の 校舎新築 人口6,753人	
1950		25	大水害 牧岡小学校が開校	(朝鮮戦争勃発)
1951		26	川上中学校が開校	北海道電力が発足
1952		27		十勝沖地震 民間放送の本放送開始
1953		28	札沼線浦臼～雨竜が開通 川上中学校国領 分校を設置 川上小学校国領分校が国領小学校となる 豪雨による大水害	冷害凶作
1954		29	川上中学校国領分校が国領中学校となり校舎新築 雨竜沼登山路が完成 村役場庁舎の新築	青函連絡線「洞爺丸」台風で沈没 冷害風水害で凶作
1955		30	大水害	戦後最大の豪雨被害 大豊作 人口447.3万人
1956		31	札沼線全線復元 赤痢流行 大冷害大凶作(四分作)	冷害
1957		32	牧岡小学校、渭の津小学校の校舎増築	札幌-仙台-東京間の即時通話開通
1958		33		人口507.5万人
1959		34	牧岡に電気がひかれる 人口7,221人	民法札幌テレビ放送開始
1960		35		人口503.9万人
1961		36	雨竜町となる 雨竜市街に街灯を設置 人口7,192人	小児マヒ生ワクチン一斉投与
1962		37	雨竜市街、追分市街の舗装工事が完成	道全域に豪雨被害甚大
1963		38	雨竜ハイヤー開業	
1964		39	冷害 雨竜沼高層湿原帯天然記念物指定	冷害凶作
1965		40	江竜橋が完成し伏古渡船場を廃止	人口517.2万人 2年連続凶作
1966		41	暑寒ダムが完成	
1967		42	南暑寒荘が落成	北大で道内初の原子炉始動
1968		43	農村集団自動電話開通	道内初のアイ・バンク発足 札幌で心臓移植手術国内初成功 函館本線小樽～滝川間電化
1969		44	町木(トドマツ)、町花(ダリア)を指定 雨竜小、雨竜橋小が統合 人口5,676人	函館本線滝川～旭川間電化
1970		45	雨竜小が渭の津小、牧岡小、川上小と統合	北海道百年記念塔が完成 人口518.4万人

西暦	元号	年	雨竜町の主なできごと	北海道の主なできごと
1971	昭和	46	雨竜小学校統合校舎落成 冷害	札幌地下鉄南北線開通 札幌地下街オープン
1972		47	札沼線沼田～新十津川間廃止	札幌オリンピック冬季大会 UHB本放送開始
1973		48		地価暴騰 物価高騰
1974		49	雨竜中学校統合校舎落成	
1975		50	台風による集中豪雨水害	人口533.8万人
1976		51		札幌地下鉄東西線開通 冷害 凶作
1977		52		母子里で最低気温 有珠山噴火
1978		53	公民館が新築	
1979		54	史跡公園完成 人口4,181人 地域集団電話が一般電話に切替となる	
1980		55	雨竜小学校とトロント国語教室日本語学校が 姉妹校となる	滝川市でカイギュウの化石発見 冷害史上2位
1981	平成	56	豪雨による大水害	千歳空港国際化
1982		57	町営スキー場開設	北海道博覧会
1984		59	道立雨竜高等養護学校開校	
1986		61	国鉄バス川上線廃止	冬季アジア競技大会開催
1987		62		国鉄民営化 私鉄大夕張鉄道廃業
1988		63	豪雨による水害	青函トンネル開業 JR歌志内線廃止 青函博覧会 新千歳空港オープン 札幌地下鉄東豊線開業
1989		64 元	開基百年記念式典 人口4,048人	JR天北線・名寄本線廃止 ふるさと銀河線開業 本道観光ブーム
1990		2		「きらら397」人気急騰
1992		4	ふれあいセンター落成	(「毛利 衛」)米スペースシャトル打上げ
1993		5		釧路沖地震 北海道南西沖地震 戦後最大の冷害
1994	平成	6	いきいき館落成	北海道東方沖地震 記録的猛暑
1995		7	パークゴルフ場開設	
1997		9	道の駅「田園の里うりゅう」開設	拓銀破綻
1998		10	ライスコンビナート落成	エアドゥが千歳ー羽田線就航
1999		11	人口3,628人	イメージアップフレーズ 「試される大地」が決定
2000		12		有珠山大噴火
2001		13	雨竜駐在所移転新築	
2002		14	町営スキー場休止 学童保育開始	
2003		15	ごみ分別回収開始 町内公共施設地域イントラネット完成	

西暦	げんごう 元号	ねん 年	うりゅうちよう おも 雨竜町の主なできごと	ほっかいどう おも 北海道の主なできごと
2004	平成	16	台風18号による暴風被害 「雨竜沼湿原」北海道遺産に認定	平成の大合併1号、新函館市誕生 日本ハム移転、東京→北海道へ 駒大苫小牧、甲子園で北海道勢として初優勝
2005		17	自治区再編（町内住所の表示が“第○町内”）に変更 「雨竜沼湿原」ラムサール条約登録湿地に認定	知床、世界遺産に登録 札幌市でポイ捨て防止条例施行
2006		18	道の駅に「特産品販売施設」「雨竜沼自然館」がオープン	夕張市財政破綻へ ばんえい競馬、帯広単独へ 日ハム44年ぶり日本一に
2007		19	滝川地区広域消防事務組合雨竜支署と江部乙支署が統合し、江竜支署が開署	ミートホープ社による牛肉偽装発覚など食品不祥事が続発 旧南茅部町出土の中空土偶が道内初の国宝に認定
2008		20		北海道洞爺湖サミットが開かれる 道内主要スーパーのレジ袋が有料化
2009	平成	21	深川警察署追分駐在所を廃止し、雨竜駐在所に統合 人口3,019人	道産米の新ブランド「ゆめぴりか」デビュー 丸井今井、民事再生法申請 札幌西武閉店
2010		22	雨竜町防災行政無線がスタート 雨竜小、中学校再編計画を策定	行政区を支庁から総合振興局・振興局に変更 陸上の福島千里がアジア大会で短距離2冠達成 新千歳空港新国際線ターミナルビル開港
2011		23	雨竜町制施行50周年 雨竜消防団創立100周年 新しい江竜橋が完成	東日本大震災により道内も大きな被害を受ける 道東道「夕張一占冠」間が開通 札幌地下歩行空間完成 (札幌駅～大通駅)
2012		24	雨竜小・中学校屋内体育館が完成	ロンドンオリンピックで上野ら3人がメダル獲得 39年ぶり節電要請
2013		25		
2014		26	小学校と中学校が併設校舎になる	
2015	平成	27	新十津川町学校給食センターから給食供給スタート	寝台特急トワイライトエクスプレス、北斗星運行終了
2016		28	雨竜町百年史 続編発行	北海道新幹線新青森駅～新函館北斗駅間開通 8月北海道豪雨
2017		29	日本ハムファイターズ鎌谷選手、松本選手が雨竜町応援大使に就任	北朝鮮ミサイル北海道上空を通過

西暦	元号	年	雨竜町 おも の主なできごと	北海道 おも の主なできごと
2018		30	雨竜町役場新庁舎完成 う りゅうちょうやくば しんちようしゃ かん せい	胆振東部大震災により、北海道では大きな被害が出る 北海道命名150年 いぶりとうぶ だい しんざい により、ほっかいどうでは 大きな 被害 が出る ほっかいどう せいめい 150 年
2019	令和	31 元	雨竜町開基130年 雨竜小学校開校50年を迎える う りゅうちょうかいき 130 年 う りゅうしょうがっこう かいこう 50 年 を むか	新元号が「令和」になる しんげんごう が「れいお」になる